

第35回経営協議会議事要録

日 時 平成24年3月15日(木) 13:00～15:20
場 所 国際交流会館 第1・第2会議室
出席者 片山卓也(議長), 日比野靖, 川上雄資, 平野仁司, 黒田壽二, 國藤進,
落水浩一郎, 栗野幸徳, 新木富士雄, 末松安晴, 辻井重男, 林勇二郎及び
平澤冷の各委員
欠席者 谷本正憲及び宮原秀夫の各委員
オブザーバー 石丸成人(石川県企画振興部次長(高等教育担当))
松川憲行特別学長補佐
赤木正人及び松村英樹の各研究科長
池田知識科学研究科評議員

議事に先立ち、広報調整課長から、最近の本学の活動状況について、資料1に基づき紹介があった。また、議長から、平成23年12月15日付け開催の第34回経営協議会(書面付議)の議事要録(案)について、資料2に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

議 事

<審議事項>

1. 平成24年度年度計画について

総務課長から、平成24年度年度計画について、資料3に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、3月末までの文部科学省への提出において修正の必要等が生じた場合の対応については、学長に一任された。

2. 自己点検・評価報告書について

総務課長から、自己点検・評価報告書について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

なお、今後、追加・修正の必要等が生じた場合の対応については、学長に一任された。

3. 平成24年度予算編成方針等について

会計課長から、平成24年度予算編成方針等について、資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(主な意見等は以下のとおり ○：委員等の発言，□：議長及び法人側の発言)

- 教育機構経費と研究機構経費の内訳と総表の支出の内訳のトータルが合っていないが、総表の収入支出報告の金額と機構経費の内訳は違うということか。
- 特別経費を加えれば、同額である。
- 支出で言うと、教員研究費と学生研究費を合わせると、だいたい2億7千万円を計上しているが、教員数はおよそ170名なので、一人当たり平均170万円ほどが運営費交付金から出ている。外部資金を見ると受託研究と共同研究で約4億4千万円を獲得してきており、科研費でも約4億4千万円を獲得してきている。以前紹介したと思うが科研費の昨年度の新規採択率は、国立大学の中で3位であり、理工系ではトップである。そういう状況で、本学の教員が研究で活躍した分が収入となって現れている。
- 教員研究費の配分単価表を見ると、教授が准教授の倍くらいの配分額で、准教授以降もだんだん配分額が減っていくわけであるが、どのような考えで配分しているのか。
- 文部科学省の配分基準に基づいている。以前から、教授・助教授・助手と全て決まっております、本学ではそれを踏襲している。
- 質問は、実質的には教授より准教授の方が経費を必要とするのではないかということ。
- 予算単価は資料のとおりとなっております、実質的な配分もこれに基づいている。
- 補足すると、教員に配分している経費は教員研究費と学生教育費があり、学生教育費は指導する学生数に比例している。学生教育費の配分額には准教授、教授の区別がない上、配分全体の割合として教員研究費より多いため、実質的な配分額はあまり差がない。
- 基準に基づいて経費を配分しているが、今回の質問の趣旨も理解できるので、場合によっては少し変えてもよいかと思う。
- 准教授であっても、非常にアクティブに活動している教員のところには、それなりの経費が実際には配分される仕組みになっている。

4. 平成25年度概算要求方針について

会計課長から、平成25年度概算要求方針について、資料6に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

5. 国家公務員の給与の改定及び臨時特例に係る本学の対応について

人事労務課長から、平成24年2月29日に制定された国家公務員の給与の改定及び臨時特例に関する法律に係る本学の対応等について、資料7に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

6. 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学における給与制度の見直し及び改善について

平野理事から、国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学における給与制度の見直し及び改善について、資料8に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。続いて、人事労務課長から、先に審議・承認された給与制度の見直し及び改善に伴う関係規則等の整備について、資料8に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

(主な意見等は以下のとおり ○：委員等の発言，□：議長及び法人側の発言)

- 民間平均と比較しているが、職員数100人以上500人未満で比較しているのはなぜか。また、民間というのは私立大学のことか。
- 企業ではなく私立大学である。本学と似た規模の私立大学と比較している。
- 基本的にはJAISTはよく努力している。研究成果も挙げており、科研費の獲得が国立大学で3位であるとか、外部評価も非常に高い評価を受けているので、自主的に成果を給与制度に反映することはよいのではないかと思う。JAIST全体の活性度から言えば、厳しい中でも成果に対して報いていくほうがよいのではないかと思う。
- 給与制度の見直し及び改善を基本給でできないのか。
- 独立行政法人の通則法を準用することになるので、職員の給与及び退職手当の基準は、主務大臣である文部科学大臣に届け出るとともに、公表することになっている。また、給与及び退職手当の基準は、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢に適合する必要があるが、国家公務員の人勸準拠ということで、基本給は触れないが、手当で職員の実績に報いるものである。法人化後、多くの大学で手当にバリエーションが出てきており、今回調査したところ、大学法人ごとに自律的自主的労使関係の中で、手当を工夫している。
- 時期が多少悪いが、この見直しはもう2年間近く検討してきたことであり、実施したい。

7. 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学旅費規則の一部改正について

会計課長から、国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学旅費規則の一部改正について、資料9に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

8. 機構体制の整備について

平野理事から、機構体制の整備について、資料10に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

9. 機構体制の整備並びに共同教育研究施設及び研究施設の設置改廃に伴う関係規則等の整備について

総務課長から、先の議事で審議・承認された機構体制の整備及び学内共同教育研究施設等の組織見直しによる組織の設置改廃に伴う関係規則等の整備について、資料11に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

<報告事項>

1. 北陸先端科学技術大学院大学の理念及び目標について

学長から、平成23年12月15日開催の経営協議会懇談会における意見を踏まえ、修正を加えた北陸先端科学技術大学院大学の理念及び目標について、資料12に基づき報告があった。

(主な意見等は以下のとおり ○：委員等の発言、□：議長及び法人側の発言)

- 報告事項であり審議するものではないが、個人的には物足りない。明治の初めに、グラスゴー大学からダイアーという人が来て、社会のリーダーたれというスローガンを掲げて、日本の工学教育を指導したが、日本は結局そうならなかった。社会に対する技術者の発言力が弱いと日本としてはこれから色々まずいのではないかと思う。これはこの大学だけのことではないが、口だけ上手い評論家・文化人が現実を知らずに、社会をミスリードしていくこともかなり多い。技術者や研究者がもっと社会のリーダーになるということを考えると、例えば最初の理念の部分で、「次代の科学技術創造の指導的役割及びそれを通して社会・産業界におけるリーダー的役割を担う人材を育成する。」としてはどうかと思う。東大の工学部や東工大などは、経営ということをはっきり言っている。東大の工学部は、産業界のリーダーを育てると言っているが、JAISTのものだと企業の研究部長止まりではないかという感じがする。そうは言ってみても、教育によってそれほど変わるものでもないで、これはこれで結構だが、ちょっと物足りないという感じがする。
- 今、指摘があった部分は目標の新しい世界を切り拓くリーダーという記述に込めたつもりである。
- 新しい世界は何となく漠然としており、広すぎてよくわからないのではないか。
- この記述では、学術分野の研究人材の育成に終わってしまうのではないかという気がする。そういう風に受け止めた。
- 研究の記述はかなり工夫して、「世界や社会の課題を解決する研究に挑戦し、」という記述にしている。
- 次世代の開拓をする大学としては、理念の「次代の科学技術創造の指導的役割」という言葉が、ちょっと合わないのではないか。この表現だと、そろそろ大学が求められて

いることに合わなくなってきたのではないかという気が、非常に強くする。

- この文章は、理念を目標のところでは具体化するという感じで作っている。目標の部分を読んでいただくと、指摘のあった部分が組み込まれていると思う。そういうつもりで、目標の部分は作り直している。
- 指摘はもっともだが、東大の場合は、工学部もあれば文系の学科もある。もちろん理想的には指摘のあった意見に賛成だが、「新しい世界を切り拓く」というところで、指摘の部分を目指していくという方向で検討してはどうか。
- 北陸先端科学技術大学院大学という大学名があり、それとの整合性を理念では取っておかなければならないだろうと考えており、目標のところではそれをかなり現実世界に寄せて作ったつもりである。
- やはりこの大学を作った時、他の大学で困っていることを率先して、それを先取りしてやっていくということで、こういう大学院だけの大学ができている。それと合わなくなってくると、あなた方はもう要らないということにならないか。これから大学改革は非常に厳しいことになると言われている。個人的意見だが、大学改革の初年度だと言われているくらい厳しい時代であることを受けておかなければならないと思う。
- 実質的にはそういう風に、もうかなり舵を切ってしまうている。もちろん教育もそうであるが、特に研究に関して、基礎研究をメインにやる場所ではなく、メインには課題研究をやる場所だという形で、文部科学省に予算などを要求しに行っているところである。
- 副専攻論者の立場から言うと、例えば理系の者が何か論文を書いて引用するときに、基本的なアイデアを1行書いて、後は文献を挙げておけばそれで相手も納得する。ところが文系の者は、何十行もそのまま表現を書き、表現そのものがオリジナリティだという風に価値観が違う。世の中に出ると理系の者は文系の者に負けてしまう。一般にはそういうことがあるので、目標とか理念を具体化する時には、単に広い視野とかではなくて、副専攻をもう一つやるとかということがなければならない。理系の場合、単純化するほうが美しく格好よいのだが、世の中に行くと負けてしまう。たくさん書けば書くほど状況証拠がたくさんあって証明になるという文系のような価値観が違う世界のように、具体的に副専攻みたいなものが必要だと思っている。この大学だけの問題ではないが、これからは技術が大事であるのに、理系が文系に負けてしまい、文系の者がトップになって、世の中をリードしてしまうとまずいのではないか。
- 具体的な政策としては、今度の教育改革の中で強気に押し込んでいる。どこまでこういうところに書き込むべきかという書き方の問題である。どこまで書いたときに、大学の理念とか目標として通用するかということである。
- 次世代技術創造の指導的役割というのは、創立時のイエローブックの趣旨に沿っている。当時は、むしろ学問として創造的なことにもっと力を入れて取り組もうという意気込みがかなりあったのだと思う。理系の人間の社会的な役割が重要であることは、今回の原発事故のことで非常に感じている。中央官庁のほとんどで、理系の人間が責任のあるポストに就いていないということもある。日本の社会の中核部分で、理系の人間が責任のあることができない状況であることも大きいし、教育の場で、責任のある人間としてやっていかなければならないという教育を受けていないということもある。そ

このところは今回是非力を入れてやっていきたいと思っている。

- 指摘された内容も含めたつもりだが、人文的とか社会的とかと記述するのは、慎重にすべきだと思う。どのように記述するとよいか。
- 研究能力の涵養とともに、社会のリーダーの育成を目指していると記述してはどうか。
- 次代の科学技術創造を通じて、社会で指導的役割を担う人材ということか。
- 理念に基づいて色々な大学の中のポリシーを決めているので、議論を収束させなければならぬ。都合がつく範囲内で、変えられる部分に関しては変えたい。その部分に関しては、ここでは諮れないので一任していただきたい。
- 以前、どういう考えで大学を作ったかを議論したことがあり、JAISTは諸大学の転換したい方向を率先してやるということである。今は要請されていたことが変わっている。もちろんそれもあるが、先ほどからの指摘の部分を考えて運用するというのであれば賛成である。
- 注意しなければならないのは、目標の三つめのところである。学生・教員の海外からの積極的な受入れとあるが、今やっていることだけでよいのか。受け入れると同時に送り出すということがある。
- その部分に関しては、グローバルに活躍する人材の育成という記述に、国際的な環境を作って、グローバルに活躍する人材を育成するという意味も込めたつもりである。
- 大学が海外に出て行っていないのは、世界中を見ても日本だけである。自分のところで受け入れ、あるいは自分のところで国際対応、国際通用性とか標準性とか、あるいは国際的に必要な異文化理解とかをやって、外国の企業が採ってくれるだろう、日本の企業の多国籍化しているところが雇用するだろう、という考え方なのだが、世界ではそうではない。日本だけが取り残されている面があるので、そこに強く注意を払った方がよい。可能であれば受入れだけではなく、一般的な表現にしておいたほうがよいと思う。
- やや不満がある。NAISTと比べてどういう特色があるのかという際に、知識科学という独自の学問領域が非常にユニークだと言える。例えば、最近できたOISTだと、国際的な環境というのがまさにそのとおりになっている。社会のリーダーとか社会における活躍の元になるものが、知識科学でやっていることが基盤になっているというニュアンスが入っていると、この大学らしいと思う。そしてまた他の大学にはない、新しい方向性が見えるのではないかと思う。これは今直すというよりも、今後の展開の方向である。10年20年前から、これからの日本は文理融合であると言われていたが、一向に実現できていない。本当にやらなくてはならないことを先取りするような構成にJAISTはなっているので、それを活かして取組もうという話であれば、もう少しパンチがあるかと思った。ただこれは今後の展開の中で、実体化されればよいかと思う。
- 明確に理念や目標に書いておいたほうが、施策としてはやりやすい。新しい世界を切り拓くという部分に社会という言葉が出てくれば、解は作れると思うが、ここで知識だけを取り入れるというわけにはいかない。
- 社会で活躍する時に、知識科学でやっている合理的な思考を進めることが一番の基本であるが、合理的思考だけでは社会には通用しない。経験の集積を合理的思考に転嫁するためには、自然科学とは違う様々なアプローチを使わなければならないが、その種の基盤がJAISTの中には埋もれているのではないかと思っている。何を育成するのか

というときに、単なるリーダーではなくて社会のリーダーというところで、輪が広いと高度な専門性が育成されるというこの大学らしい基盤があるというようになる。

- 今言われたようなことをソーシャルイノベーターと言っていた。例えば、「次世代の科学技術創造や社会創造の指導的役割」と記述するとか、「人材」のところを「社会的革新者」とか「ソーシャルイノベーター」に代えるとか、あるいは目標のところで「社会のリーダー」と記述するとか、そういうことを一つ入れるだけで、活躍の場が広がるのではないか。
- 研究でいうと、基礎研究があり、科学技術立国としての先端的研究がある。もう一つは持続的な研究がある。持続的発展は、世界のため人類のためというものであるが、これらを全部統合すると、技術的な革新だけではなく、矛盾を抱えたような社会のシステムを変えていくソーシャルイノベーターとなる。そういう意味では、JAISTは材料科学があり、情報科学があり、知識科学がある。経営という言葉が入って、知識科学的な要素が入っているというところをうまく絡めて、科学技術の革新だけではない、社会システムも変えるというイノベーションというものを、研究の部分で表現していけば割とうまくいく気がする。知識科学は他の大学にはないものである。
- 日本の産業構造自体を変える人材を育成しておかなければならない。
- 次世代の科学的創造の指導的役割及びそれを通して社会におけるリーダー的役割を担う人材という、技術だけではなく経済を含めたイノベーションというのは当然であり、どの分野においても技術者がもっと出ていかないと、これからの科学技術がベースとなる世の中はうまくいかないのではないか。これはJAISTだけの問題ではない。技術者全体として、日本の大学全体の理工学部として考えれば、そういう社会のリーダーを育成し、様々な矛盾相克を乗り越えて行かなければならない。情報化によって世の中の連続性が高まり、矛盾相克がいたるところに遍在化するこれからの日本の社会のリーダーを、技術者がかなり担わなければならないということが持論である。
- 自分であれば、どうするのかを述べさせていただく。理念の部分で「次世代の…」という記述をやめて、「科学技術創造を通して社会の指導的役割を担う人材を育成する。」と記述する。次に、目標の一番目の部分は、「新しい世界を切り拓く社会のリーダーを育成する。」とし、二番目の部分は、基礎研究を通して「成果の社会還元」ではなく、「社会発展」に努めるとする。三番目の部分は、「学生や教員の海外からの積極的な受入れ、」ではなく、「学生や教員の海外との積極的な交流を進め、」というように、受入れではなく交流を進めるとする。そんな印象で今まで発言していた。
- 今日は報告ということであったが、直せるところは直したい。これ以上諮る機会がないので、今回いただいた意見を踏まえて直すということで、よろしくお願ひしたい。

2. 平成24年度概算要求の状況について

会計課長から、平成24年度概算要求の状況について、資料13に基づき報告があった。

3. 最近の本学に関する新聞報道について

学長から、最近の本学に関する新聞報道について、資料14に基づき報告があった。

<その他>

1. 来年度の開催日程について

議長から、来年度の本協議会の開催日程について、資料15に基づき説明があった。

2. 人事異動について

議長から、本年4月1日付けで、平野理事が国立大学法人広島大学理事に異動し、後任には、前田俊夫 大学共同利用機関法人自然科学研究機構岡崎統合事務センター長（兼）総務部長が就任する旨の紹介があった。

資料

- 1 最近の本学の活動状況の紹介
- 2 第34回経営協議会（書面付議）議事要録（案）
- 3 平成24年度年度計画（案）
- 4 自己点検・評価報告書（案）について【一部別冊資料】
- 5 平成24年度予算編成方針について（案）
- 6 平成25年度国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学における概算要求方針について（案）
- 7 国家公務員の給与の改定及び臨時特例に係る本学の対応について
- 8 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学における給与制度の見直し及び改善について（案）の概要
- 9 国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学旅費規則の一部改正について
- 10 機構体制の整備について（案）
- 11 機構体制の整備並びに共同教育研究施設及び研究施設の設置改廃に伴う関係規則等の整備について
- 12 北陸先端科学技術大学院大学の理念及び目標
- 13 平成24年度概算要求の状況について
- 14 最近の主な新聞報道（平成23年12月～平成24年2月）
- 15 平成24年度 経営協議会の開催日程（予定）